

アンケート調査及び グループインタビュー(聞き取り調査)からの 考察 ～構造的な課題を探して



一般社団法人
社会福祉士事務所にじみる

1

◆ 課題 ◆

1. 高齢者虐待の実践経験を積重ねることが難しい。
2. 「高齢者と養護者の人間関係」「養護者の性格や言動」など対応が困難と感じられている事項への対応方法が確立されていない。
3. 高齢者虐待に対応する職員は緊張と不安がありストレスを抱えているが、ケアする仕組みが少ない。

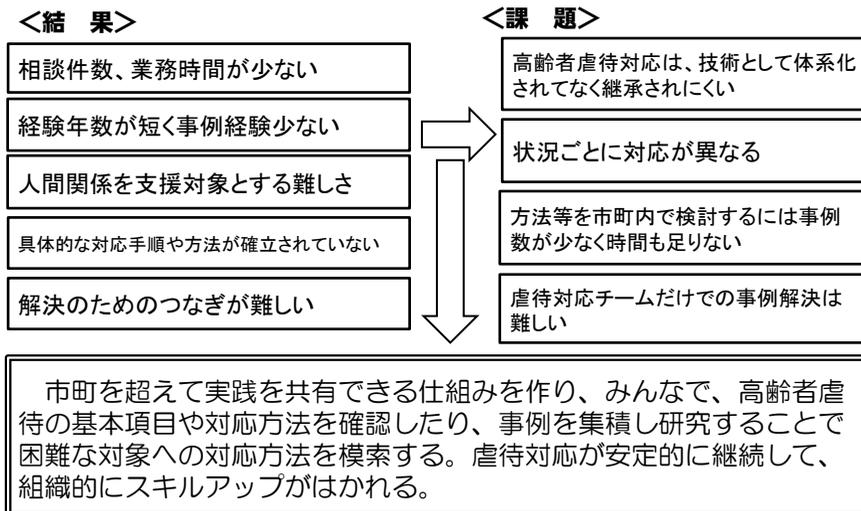
◆ 解決策 ◆

1. 高齢者虐待対応実践を積重ね事例を研究し、より効果的な対応方法につなげる。
2. 「高齢者と養護者の人間関係」へ介入し、養護者への支援もしっかりと行う。
3. ストレスを抱える職員をケアする。

にじみるの提案は次スライドから

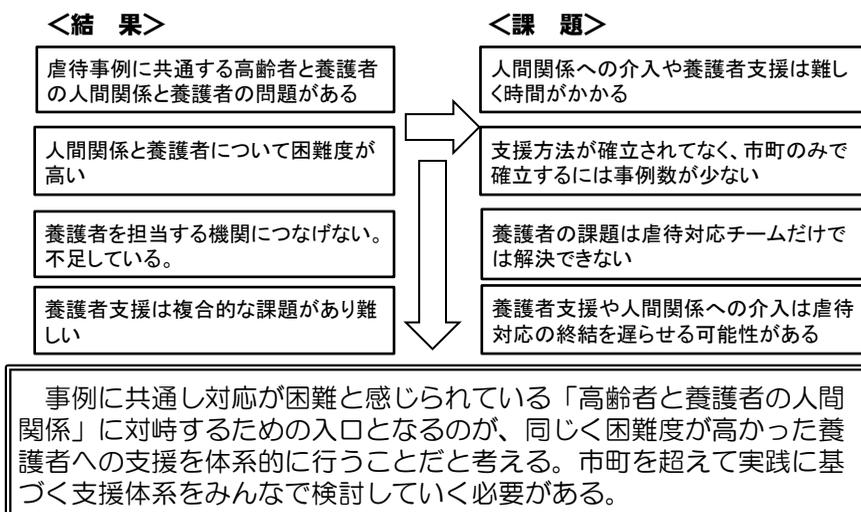
2

1. 市町を超えて高齢者虐待対応実践を積重ね共有する仕組みが必要。



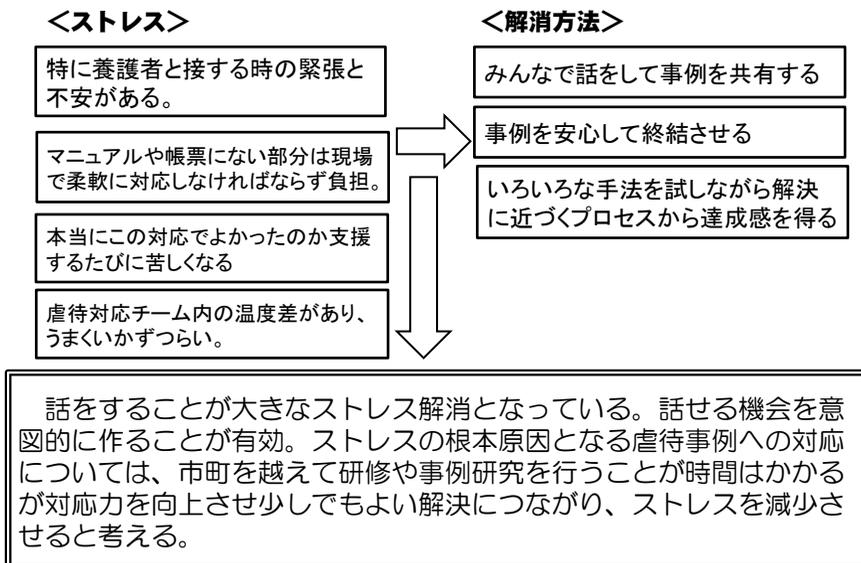
copyright©2015 SocialWorker Offices NUJIMIRU all rights reserved.

2. 養護者支援を体系的に行える方策の構築が必要。



copyright©2015 SocialWorker Offices NUJIMIRU all rights reserved.

3. 職員をケアする仕組みが必要。



copyright©2015 SocialWorker Offices NUJIMIRU all rights reserved.

4. おわりに

今回のアンケート調査・聞き取り調査を通じ、高齢者虐待対応の現場にモヤモヤと存在した課題が少しずつ整理できてきました。その課題が前出の3点です。どの課題も普遍的な課題で、一個人や一市町だけで解決するのは困難だと考えています。

グループインタビュー（聞き取り調査）では、市・町、包括の皆様が行っている実践の数々をお聞きしました。それは宝物と言うべきものでした。

一方で、市・町、包括とも、担当する人が代わると対応方法がガラッと変ってしまう現実も複数お聞きしました。

「もったいない！」と強く思いました。市町にある貴重な実践を、困難の解決につなげたり、対応力の向上につなげたい、と、考えた結果が、市町を超えた実践の積重ねと共有の仕組みの必要性です。

アンケート結果から、今後ますます「人間関係」が支援ターゲットとなり、虐待対応の困難度が高まると推測されます。

まずは、今後の高齢者虐待対応に何が必要で、どうすればよいか、市町を越えてみんなで考える機会になればと考えています。

copyright©2015 SocialWorker Offices NUJIMIRU all rights reserved.